



## <米価引上げ>

米の増産の一方、供給量の過多が米価下落を招くことも懸念された。

→吉宗は、米価上昇（武士の収入増加）で、武家の財政を安定化しようとした。

⇒大坂<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ の米市場の先物取引を公認し、仮需要での米価上昇を試みた。

◇米価調節に奔走したため、吉宗の俗称は米將軍

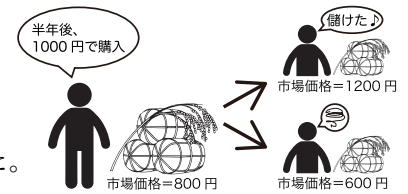


図5 先物取引

## <財政支出の抑制>

吉宗は儉約令をしばしば出して、大名やその領民に質素儉約を命じた。

## •その他の諸改革

### <裁判事務の簡素化>

1719年、吉宗は<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_ 令を出し、金銀貸借の争いを当事者間で解決させた。

◇(17) …訴訟の減少が目的で、裁判借金銀に悩む旗本・御家人の救済策とするのは誤説

### <新しい産業の奨励>

吉宗は甘藷・さとうきび・樫・朝鮮人参などの栽培を奨励した。

⇒特に甘藷に関しては、<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ を登用して、救荒用に普及を実現させた。



青木昆陽（儒学者）

世の飢饉を憂い、徳川吉宗に甘藷ことサツマイモの栽培を建言した。俗称は「甘藷先生」である。

### <学問の奨励>

1720年、吉宗は漢訳洋書の輸入制限を緩和し、西洋の技術・学問の吸収を図った。

◇1740年、青木昆陽・野呂元丈にオランダ語を学ばせ、後の蘭学興隆の基礎を構築

## <江戸の防災>

江戸の防災は、町奉行<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_ によって進められた。

①広小路・火除地などの設置で延焼を防止

②定火消とは別に、町方独自の<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ を組織

◇(18) …「いろは」47組（のち48組）から成る消防組織

◇鳶人足…建築の足場を組立てる職人で、(18)の構成員の中核



図6 い組・ろ組・は組の纏

## <救民政策>

評定所の門前に設置した<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ に、庶民の意見を投書させた。

⇒意見に基づき、貧困な病人の救護施設<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_ を設置した。



図7 目安箱

## •吉宗政権末期の政策

### <司法基準の明確化>

1742年、幕府の成文法<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ が完成し、裁判の公正な基準が定まった。

### <将軍家の断絶防止策>

徳川吉宗は将軍家の断絶を防止するため、三家のほかに新たな分家を2つ設けた。

⇒1つ目が吉宗の次男徳川宗武を始祖とする田安家、

2つ目が吉宗の四男徳川宗尹を始祖とする<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_ 家である。

◇後に9代将軍徳川家重の次男徳川重好を始祖とする清水家も加え、

田安家・(22)家・清水家を三卿と総称



図8 徳川宗武



図9 徳川宗尹